

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073200158		
法人名	株式会社データベース		
事業所名	グループホーム我楽		
所在地	福岡県大野城市乙金台1丁目11番31号 (電話) 092-504-0831		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果確定日	令和5年1月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・お一人お一人の持つ能力や意思の汲み取りに努め、その人らしい生活ができるよう支援している。  
・生活の中で、楽しみながら出来ることをお手伝いをして頂きながら、身体機能の維持を図っている。  
・意思の尊重に努め、否定せず、敬意を持った言葉かけに努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和4年11月21日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

食事とおやつのほとんどが事業所での手づくりで、事業所の庭で家庭菜園を行い、そこで採れた新鮮な野菜が食卓に並ぶこともある。近所付き合いを大切にし、野菜や果物等のおすそ分けを行う等、関係性を築いている。2名の看護師が勤務しており、利用者の体調管理が適切になされるよう支援している。職員は利用者一人ひとりを見守りながら、適切な介護の実践に努めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に全員で理念を唱和している。また、不定期ではあるが、実際に理念に添ってどうケアに当たったのかをお互いに報告し合う時間を設けている。	地域密着の視点を有した理念がある。朝礼時に理念を唱和し、ミーティングでは理念の現場での実践について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。コロナ禍の為、以前のような地域行事等への参加は自粛している。	町内会に加入し、清掃活動に参加する等している。地域住民からの野菜や果物の差し入れが頻繁に行われる等、地域とのつながりを大切にしている。コロナ禍のため地域活動は自粛しているが、コロナ後は公民館等での活動の再開に向けて調整を図っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、入居者様と地域の方々との接触は自粛しているが、職員が地域の方々と接した際には、会話の中でお伝えしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面にて開催中。書面のやり取りの中で頂いたご意見を参考に、ケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回、運営推進会議を書面で開催しており、委員から意見書を返送いただいている。夜間の薬の誤飲を防ぐために日勤職員と夜勤職員のダブルチェックを行うことについて提案がなされて取り入れる等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は電話での連携を中心とし、分からない事などは気軽に相談している。また、市からのボランティアの受け入れ等、行政からの要請に協力している。	日頃から行政に訪問や相談を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。また、市の幹旋による本の読み聞かせボランティアを定期的に招く等、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修参加に努め、施設内においても委員会を設置し、年に6回の研修を行い、職員全員が持ち回りで講師をする形で理解を深め、実践している。この数年間は特に、入居者様に対する言葉使いに気を付けている。	日中、玄関や居室の施錠は行っていない。職員は、利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。定期的に外部、内部研修を実施し、研修記録も整備されている。事業所に身体拘束に関する委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修参加に努め、その伝達研修を行っている。不適切ケアや虐待については、日頃から特に念頭に置いており、職員間で遠慮なくチェック、相談、指摘をし合う雰囲気作りをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については外部・内部研修を行っている。他の内部研修に漏れず、施設内の入居者様やケースと照らし合わせながら行っている。	制度に関して、利用者や家族に契約時に説明を行っている。全職員が内部、外部研修を受けられる体制を整えている。テキストやパンフレット、研修記録等が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、了解を得た上で契約している。また、施設の種類や違いなどの説明も行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置して、「介護サービスの苦情・相談窓口」のポスターを目に入りやすい場所に掲示している。また、来設時に気になる点や心配事など伺い、言葉のみならず非言語の部分でも受け取れるように心がけている。ご意見については早目の対応を心がけている。	利用者が管理者や職員に日常的に意見や思いを伝えられる機会があり、席の配置や食事内容等、要望を運営に反映させるよう努めている。また、意見箱を設置し、利用者や家族が意見を述べやすい環境を作り、意見を運営に反映させるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が足しげく来設し、入居者様や職員と直接話す機会を作り、意見交換を行っている。職員が意見を出しやすい環境づくりをしている。	代表者や管理者は、ミーティングや研修会、現場で職員の意見を聴取する機会を設けている。また、職員が意見を言いやすいように、日頃から信頼関係を構築するよう努めている。職員の提案で、仕事内容のマニュアルを作成する等、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員個々の努力や実績を含め、給与や賞与の改善に努めている。また、残業はイレギュラー時以外はしないよう指導を行い、サービス残業は皆無である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女経験を問わず採用し、入社後は既存スタッフによる研修フォローやOJTを行っている。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。定年はあるが、希望に応じて継続勤務することが可能である。教育訓練や配置、昇進等において、差別なく誰もが安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者および管理者はスタッフの手本となるよう積極的に入居者及びそのご家族と接している。また、外部研修に参加し、それを基に勉強会を行い、スタッフに周知し、実践するようにしている。	一部の職員が研修に参加して伝達研修を実施し、全職員が人権に関する知識を深めるよう努めている。テキストや研修記録等を整備している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修や資格取得の講習へ参加できるよう人員調整を行っている。また、ある程度経験年数を重ねた者には、その経験に見合った資格取得を勧めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナウイルスの影響もあり、交流を図れていないが、今後、オンライン等を活用して交流を図り、サービス向上に努めたい。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、それまでいらした施設などからの情報を参考にしている。特に、ご本人とは密なコミュニケーションをとり、他入居者様との仲介を行うことで、安心感を持って頂けるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には特に注意を払って関係作りに努めている。まずは傾聴し、ご家族の不安・要望についてはいつでもお答えできる旨をお伝えしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような生活を望んでおられるかを必ず伺い、出来るだけ快適に生活して頂けるようにアセスメントを行っている。訪問歯科については誤嚥防止と認知症進行予防のため、ご本人とご家族へ積極的に話をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に無理がない範囲で、台所仕事や洗濯物干し・畳みをして頂いている。自室の掃除機かけをご一緒にする事もある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様がよりご自分らしく暮らせるよう、来設時などにご相談をしている。入居者様のご要望に職員が応えられない場合には、ご家族へ連絡し、協力を頂くこともある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の要請があり、ご本人の承諾があれば受け入れている。また、以前住んでいた場所を見に行きたいという要望があった際には車でお連れした。	管理者や職員は、馴染みの人や場所について利用者や家族から聴取して把握している。車で出かけた際は、利用者が以前住んでいた地域をドライブする等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いっしょ会に参加して頂き、皆で話をする機会を設けている。また、適宜関係性を見ながら席の配置替えをしたり、場合によっては職員が間を取り持つなどしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去、転院された方で、事情により一泊の要請があった際は受け入れをした。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から、ご希望を察するよう努めている。また、家事を好まれない方、多人数での活動を好まれない方についても、決して強要せず、ご本人が楽しめる事をして頂くようにしている。	職員は、利用者との日々の生活の積み重ねから、希望や意向を汲み取る努力を行っている。意思疎通が困難な利用者には、家族等から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や担当のケアマネジャーより情報をいただき、アセスメントシートを作成し、出来る限り把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からこまめな観察と記録を心がけており、特に普段と変わったことがあれば気がかけて記入し、申し送りを行い、全員が把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望を第一とした上で、ご家族や主治医に相談や提案し、その結果を介護計画に反映している。	介護計画は、計画作成担当者が立案し、介護職員や看護師が参加するカンファレンスで定期的にモニタリング、評価されている。通常は6ヶ月に1回、利用者の状態変化に応じてその都度計画を見直し、本人や家族に説明し、署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化は漏らさず記録に残すようにしている。その上で職員間で意見交換やカンファレンスを行い、良いケアを探し出している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	過去、重度の入居者様のご家族と遠方へ旅行された際には出来る限りのフォローをさせて頂いた。今後もそのような柔軟な支援ができるようにしたいと考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、積極的に地域行事へ参加していた。現在は、感染状況を見ながら、介護ボランティアの受け入れを行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族に受診や訪問診療の説明をし、希望に応じて選んで頂いている。ご家族の希望があれば、他の医療機関への受診を行い、必要に応じて提携医へ情報提供を行って頂いている。	利用者は、今までのかかりつけ医を継続して受診することができる。内科や歯科の訪問診療が定期的に行われ、緊急時は職員が受診に付き添っている。家族と受診時の通院介助や情報の伝達方法について話し合っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から風通しの良い関係を構築している。介護職は気づきや心配事などいつでも看護職に相談しており、必要に応じて受診や主治医への相談を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より主治医との情報交換や相談に努めている。入院時には病院へ、それまでの経緯を詳細に説明して、医療機関で適切な治療を受けられるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは契約時点より、段階的に意向を伺い、ご希望に沿って支援を行えるようにしている。事業所内では、心構えと出来ることについて、外部・内部研修および協力医療機関のレクチャーを受ける等して備えている。また、適切な時期に主治医よりご家族への説明をして頂いている。	重度化対応に関する指針と看取りに関する指針が明文化され、利用開始時や折に触れて、家族に説明を行っている。重度化や看取りの際は、主治医や訪問看護師と連携を取りながら、職員間で話し合い、利用者の思いや状態を共有し、利用者や家族の支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修では、必ず緊急時の対応について全員が学べる機会を設けている。また、普段から緊急時の心構えを持つようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡網に区長に入って頂き、近隣の方との関係性を普段から構築するように努めている。現在はコロナウイルスの影響で行えていない。	火災や地震、風水害に対するマニュアルが整備され、年2回、避難訓練を実施している。避難訓練を実施する際は、地域住民に呼びかけをしている。また、非常用食料や飲料水、備品を事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に内部研修を行い、その中に言葉かけの重要性も入れるようにしている。画一的ではなく、一人一人の個性や好みを考慮して言葉を選び、その都度納得していただけるよう心がけている。	人格の尊重やプライバシーについて研修を実施している。入職時や退職時には、守秘義務に関して説明し、外部にプライバシーについて話さないことを徹底している。言葉遣いを通して利用者を尊重することを目標として掲げ、日々の言葉使いに気を付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人がどうされたいかを言える雰囲気作りをして、出来る限りご希望に添うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も強要をせず、食事・いっしょ会・家事などもご本人がしたい方法やペースに合わせてして頂いている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容ができない方については職員が介助している。洋服も納得されない方については試着のお手伝いをしている。また、訪問理美容を利用した支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度が高く、料理が得意な方に調理等の手伝いをして頂いたり、季節に合わせて行事食を提供している。	3食とも事業所で調理され、味付けや形態、栄養に配慮された食事が提供されている。近所からのいただいた旬の野菜が食卓にあがることもある。行事の際は、利用者が希望する料理を作る等、食事を楽しめるよう工夫している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は特に気を付けて把握している。必要な量や内容が摂れるよう、その方の好みに合わせたり、摂りやすい形状にしたりと工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってもらい、必要に応じて介助を行っている。訪問歯科医と相談し、アドバイスを頂きながら一人一人の状態に添ったケアにあたっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗により自尊心が傷つくことがないよう気を付けている。パッド使用の方については早目の交換を心がけ、自立の方もトイレやポータブルトイレの使用を自然な形で促している。	できる限りトイレで排泄していただくことを事業所の方針とし、利用者の状態に合わせて、声かけや誘導を行っている。おむつやパットを使用する際は、時間帯や種類等、利用者一人ひとりに応じて対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、水分量・食事を工夫し（ヨーグルト・さつま芋の提供など）、軽体操などをして頂いている。改善出来ない場合は主治医へ相談し、服薬調整を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	時間については無理強いをせず、ご本人が気持ち良く入れるように配慮している。	入浴は火曜日と金曜日に実施している。入浴を望まない利用者には、気分転換してもらったり、足浴から始める等、無理強いをせずに、清潔を保てるよう工夫している。	入浴の回数や曜日について決めてしまわずに、利用者の生活習慣や希望等に合わせた入浴ができる体制づくりや工夫を期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清掃に気を配っている。また、入床時間は入居者様のペースにお任せしている。昼夜逆転が気になるようであれば、日中に活動を増やすことを心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、全職員が目にするノートに貼り、いつでも見られるようにしている。薬の変更があればその都度申し送りがあり、注意点など周知している。症状の変化も注意深く観察し合い、必要に応じて主治医へ報告・相談をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には家事を、体は動かせないが料理の仕事をされていた方には味付けを、華道の先生には花を活けて頂くなどしている。また、歌の先生をしていた方には、皆の前で歌って頂く機会を度々設け、張り合いを持って頂くようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、気がけて買い物や選挙など、ご希望に添って外出支援をしていた。	利用者の希望や天候に応じて、人混みを避けて、散歩やドライブ等の外出支援を行っている。弁当持参で花見をしたり、近隣の神社へドライブをする等、利用者を楽しんでもらえるよう工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば手元に財布とお金を持って頂いている。外出時にはご自分で支払をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の承諾を頂いたうえで、希望があればいつでも電話をかけて話して頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭のリビングや台所のような雰囲気作りを心がけている。庭に咲いた花を入居者様に生けて頂いている。また、不快だと言われた飾り物などについては取り除いている。	共用のリビングには、利用者がレクリエーション活動で制作した季節の飾り物が飾られている。外の光も入って明るく、適切に温度や湿度管理がなされ、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その時々のお雰囲気により席を替わって頂いたり、ソファをおすすめするなどしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居された際にご本人とご家族主体で決めて頂いている。ご本人の馴染みの布団や家具などを持参して頂き、見慣れた環境の中で生活して頂けるようにしている。	ベッドやキャビネットが備え付けられている。テレビやラジオ、本等、使い慣れたものが持ち込まれ、写真や花を飾っている部屋もあり、利用者一人ひとりの個性を感じることができる空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手摺りを配置し、廊下の動線には妨げになるものを置かないようにしている。ご本人ができる部分については、見守り介助をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		